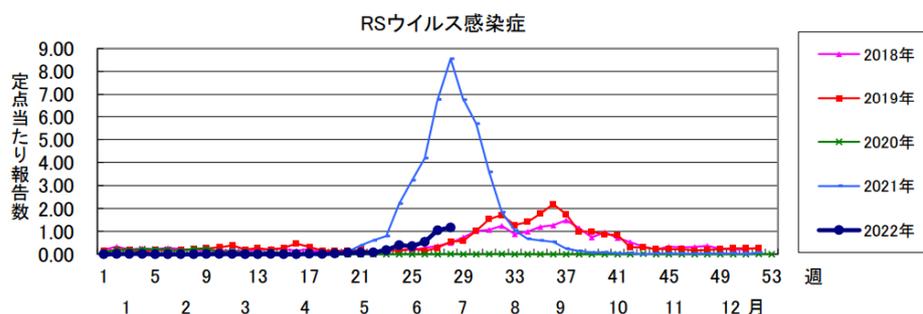


千葉県におけるRSウイルス感染症流行予測とパリビズマブ投与について 2022年～2023年シーズン（第3報）

日本小児科学会は、2019年4月に、最新のエビデンスと、現在の医療状況を反映したコンセンサスに基づく、「日本におけるパリビズマブの使用に関するコンセンサスガイドライン」を公表した。ガイドラインと千葉県内のRSウイルス感染症流行状況を考慮して、千葉県パリビズマブ適正使用ワーキンググループは、2022～2023年シーズンの流行状況を勘案し、パリビズマブ投与について以下を提案する。

1. 2022年7月以降全国および一都三県においてRSウイルス感染者は増加傾向にある。特に東海、近畿、中国地方の一部では関東よりも高い感染状況が続いている。
(<https://www.small-baby.jp/rsvirus/trend.html>)。
2. 千葉県内においても、2022年7月20日現在、夷隅、安房地域以外の全ての地域定点からRSウイルス感染症の報告があり、全県的に流行が始まっていると考えられる。特に、柏市、松戸、習志野の定点報告数が多い。
3. 昨年と比較し、増加速度は緩徐となっており、2018年、2019年と類似した流行曲線を示している（下図参照）。
4. 上記の状況から2022年～2023年シーズンにおいては、地域の流行状況や児の感染重症化リスクを鑑みて、適応児に対しパリビズマブ投与を行い、投与を継続する。
5. 千葉県内において、パリビズマブ投与は、適応病名に関わらず、1シーズンあたり7回を目安に投与することを提案する。ただし、感染症発生動向調査、患者周囲の流行状況、各地区医師会からの情報および個々の対象児のリスク等を勘案して、7回未満での終了を検討してよい。また、流行状況が予測できない或いは長期に及ぶシーズンにおいては、7回を超えた投与を否定するものではない。



2022年7月25日

日本小児科学会千葉地方会 千葉県パリビズマブ適正使用ワーキンググループ

石和田稔彦 伊東宏明 大曾根義輝 岡田広 門倉圭佑 北澤克彦 佐藤雅彦 戸石悟司
西崎直人 東浩二 菱木はるか 福島裕之 星野直